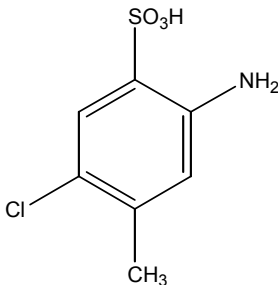


既存化学物質審査シート(人健康影響・生態影響)

平成18年12月22日開催

CAS No.	既存物質 番号	名称	分解性	蓄積性	人健康影響 判定結果	生態影響 判定結果	ページ
88-53-9	3-2024	2-アミノ-5-クロロ-4-メチルベンゼンスルホン酸	(難分解性)	(高濃縮性でない)	二監相当でない		1
4390-04-9	2-10	2,2,4,4,6,8,8-ヘプタメチルノナン	(難分解性)	(高濃縮性でない)	二監相当でない		3
5460-09-3	4-523	4-アミノ-5-ヒドロキシ-2,7-ナフタレンジスルホン酸モノナトリウム	(難分解性)	(高濃縮性でない)	二監相当でない		4
126-30-7	2-240	2,2-ジメチル-1,3-プロパンジオール	(難分解性)	(高濃縮性でない)	二監相当でない	三監相当でない	5
2581-34-2	3-790	3-メチル-4-ニトロフェノール	(難分解性)	(高濃縮性でない)	保留	三監相当	8
58-90-2	3-969	2,3,4,6-テトラクロロフェノール	(難分解性)	(高濃縮性でない)	二監相当	三監相当	11
83-32-9	4-645	アセナフテン	(難分解性)	(高濃縮性でない)	二監相当 【告示済み】	三監相当	14
541-73-1	3-41	m-ジクロロベンゼン	(難分解性)	(高濃縮性でない)		三監相当	17
6362-80-7	4-852 4-854	2,4-ジフェニル-4-メチルペンテン-1	(難分解性)	(高濃縮性でない)		三監相当	19
30171-80-3	3-965 3-987	ジプロモクレジルグリシジルエーテル	(難分解性)	(高濃縮性でない)		三監相当	21

既存化学物質審査シート

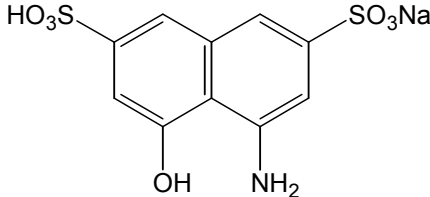
官報公示 整理番号	3-2024	CAS No.	88-53-9		
判定結果	人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない				
名称 構造式等	<p>名称：2-アミノ-5-クロロ-4-メチルベンゼンスルホン酸</p> 				
分解性	難分解性				
蓄積性	高濃縮性でない				
Ames	<p>陰性</p> <p>純度 ≥99.5 %. 溶媒 (DMSO-溶解). プレート法. TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2uvrA. (本試験 I, II)</p> <p>-S9mix 群 : 5000 μg/plate +S9mix 群 : 5000 μg/plate (確認試験 I, II) TA1535 +S9mix 群 : 5000 μg/plate</p>				
染色体 異常	<p>陽性</p> <p>D20 値=0.44mg/mL (+S9 群 : 構造異常) +S9mix 群、24 時間処理群及び 48 時間処理群において構造異常の誘発。 純度 99.5 %. 溶媒 (0.5% CMC Na-溶解). CHL/IU. 2.2 mg/mL (10mM) まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施. -S9mix 群 : 2.2 mg/mL +S9mix 群 : 2.2 mg/mL (50%細胞増殖抑制濃度) 24 時間処理群 : 2.0 mg/mL 48 時間処理群 : 2.0 mg/mL ※処理直後の培養液の pH を測定したところ、-S9mix 群の高濃度群では pH6.37~ pH6.59 まで、+S9mix 群の高濃度群では pH5.46~pH5.81 まで低下していた。</p>				
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒 : 0.5%CMC・Na 水溶液			
	純度	>99.5%			
	用量	3 投与群(100, 300, 1000mg/kg/day)			
	死亡	-			
	NOEL	1000 mg/kg/day			
	推定根拠	全群で特に毒性学的影響は認められていない			
	他の毒性	-			
回復性	問題なし				
人健康影 響判定根 拠	染色体異常試験は陽性であるが、Ames 試験陰性、NOEL1000mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当ではない。				
環境調査 ※ 1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S55	0/24	—	10~200(μg/L)

	底質	S55	0/24	—	0.5~11(μ g/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	※1 S56 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)				

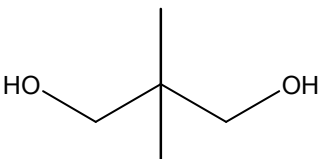
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-10	CAS No.	4390-04-9
判定結果	人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない		
名称 構造式等	<p>名 称：2, 2, 4, 4, 6, 8, 8-ヘプタメチルノナン</p> $ \begin{array}{ccccccc} & \text{CH}_3 & & \text{CH}_3 & & \text{CH}_3 & & \text{CH}_3 \\ & & & & & & & \\ \text{H}_3\text{C} & -\text{C} & -\text{C} & -\text{C} & -\text{C} & -\text{C} & -\text{C} & -\text{CH} & -\text{CH}_3 \\ & & & & & & & \\ & \text{CH}_3 & & \text{CH}_3 & & \text{H} & & \text{CH}_3 \end{array} $		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陰性 純度 99.9 %。溶媒（アセトン-溶解）。プレート法。 TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA。 （本試験 I, II） -S9mix 群：5000 μg/plate +S9mix 群：5000 μg/plate（最高用量で被験物質の析出）</p>		
染色体 異常	<p>陰性 純度 99.9 %。溶媒（アセトン-溶解）。CHL/IU。 2.26 mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施。 -S9mix 群：2.26 mg/mL +S9mix 群：2.26 mg/mL 24 時間処理群：2.26 mg/mL 48 時間処理群：2.26 mg/mL</p>		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒：コーンオイル	
	純度	99.9%	
	用量	3 投与群(100, 300, 1000 mg/kg/day)	
	死亡	-	
	NOEL	100 mg/kg/day	
	推定根拠	<p>一般状態(流涎：300 以上♂♀) 血液生化学的検査(TG ↓：300 以上♂) 絶対重量(肝 ↑：300 以上♀・1000♂) 相対重量(肝 ↑：300 以上♂・1000♀)</p>	
	他の毒性	<p>血液学的検査(PT ↑・APTT ↑：1000♂) 血液生化学的検査(K ↓・Cl ↓：1000♂、GPT ↑：1000♀) 組織学的所見(肝-小葉中心性肝細胞肥大：300以上♂・1000♀、 局限性肝細胞壊死：1000♂)</p>	
回復性	APTT ↑、PT ↑、肝重量 ↑		
人健康影 響判定根 拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性、NOEL100mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当ではない。		
備考			

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-523	CAS No.	5460-09-3
判定結果	人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない		
名称 構造式等	<p>名 称：4-アミノ-5-ヒドロキシ-2,7-ナフタレンジスルホン酸モノナトリウム</p> 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陰性 純度 87.4 % . 不純物不明 溶媒 (DMSO-溶解). プレート法. TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. (本試験 I, II) -S9mix 群 : 5000 μg/plate +S9mix 群 : 5000 μg/plate</p>		
染色体 異常	<p>陰性 純度 87.4 % . 不純物不明 溶媒 (0.5% CMC Na-懸濁). CHL/IU. 3.40 mg/mL (10mM) まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施. -S9mix 群 : 3.40 mg/mL +S9mix 群 : 3.40 mg/mL 24 時間処理群 : 2.20 mg/mL 48 時間処理群 : 2.20 mg/mL</p>		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒 : メチルセルロース 1w/v%溶液	
	純度	87.4% (不純物不明) 純度換算有り*	
	用量	4 投与群(30, 100, 300, 1000 mg/kg/day*)	
	死亡	-	
	NOEL	300 mg/kg/day*	
	推定根拠	剖検所見(盲腸拡張 : 1000♂♀)	
	他の毒性	-	
回復性	問題なし		
人健康影 響判定根 拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性、NOEL300mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当ではない。		
備考			

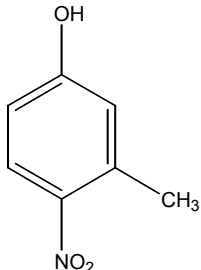
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-240	CAS No.	126-30-7
判定結果	人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない 生態影響 収集された情報からは第三種監視化学物質相当に該当するとは判断されない		
名称 構造式等	名称：2, 2-ジメチル-1, 3-プロパンジオール 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 99.15 % . 溶媒 (蒸留水-溶解). プレート法. TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. (本試験 I, II) -S9mix 群 : 5000 μg/plate +S9mix 群 : 5000 μg/plate		
染色体 異常	陰性 純度 99.15 % . 溶媒 (蒸留水-溶解). CHL/IU. 1.0 mg/mL (10mM) まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施. -S9mix 群 : 1.0 mg/mL +S9mix 群 : 1.0 mg/mL 24 時間処理群 : 1.0 mg/mL 48 時間処理群 : 1.0 mg/mL		
反復経口投 与毒性・生 殖発生毒性 併合試験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒 : 局方注射用蒸留水	
	純度	99.15%	
	用量	3 投与群(100, 300, 1000 mg/kg/day)	
	死亡	-	
	NOEL	反復投与毒性 : 100 mg/kg/day 生殖発生毒性 : 1000 mg/kg/day	
	推定根拠	反復投与毒性 : 血液生化学的検査(Bil ↑・TP ↑・Alb ↑ : 300 以上♂) 絶対重量(肝 ↑ : 300 以上♂) 相対重量(肝 ↑ : 300 以上♂) 生殖発生毒性 : 全群で特に毒性学的影響は認められていない	
	他の毒性	反復投与毒性 : 血液生化学的検査(Glu ↓ : 1000♂) 絶対重量(腎 ↑ : 1000♂) 相対重量(腎 ↑ : 1000♂) 組織学的所見(腎-好塩基性尿細管、尿細管硝子滴変性、蛋白円柱 : 1000♂) 生殖発生毒性 : -	
	回復性	実施せず	
備考	Ames 試験、染色体異常試験及び Repro Tox 試験は OECD/HPV プログラム用のデータとして提出済み		

人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性、NOEL100mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当でない。
藻類生長阻害	<p>生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養 純度： 不明（市販の試薬品を使用） 試験濃度： 設定濃度 10、100、1000、10000mg/L 実測濃度 （濃度を実測せず） 0-72hEbC50（設定値に基づく） >1000mg/L</p> <p>①平成2年度環境庁実施試験 ②上記試験結果は予備検討時の結果であり、毒性値が大きいと考えられたため本試験の実施を省略している。</p>
ミジンコ急性遊泳阻害	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 止水式 純度： 不明（市販の試薬品を使用） 試験濃度： 設定濃度 1、10、100、1000mg/L 実測濃度 （濃度を実測せず） 24hEiC50（設定値に基づく） >1000mg/L</p> <p>①平成2年度環境庁実施試験 ②上記試験結果は予備検討時の結果であり、毒性値が大きいと考えられたため本試験の実施を省略している。</p>
ミジンコ繁殖阻害	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 半止水式、48時間毎に換水 純度： 不明（市販の試薬品を使用） 試験濃度： 設定濃度 10、32、100、320、1000mg/L 実測濃度 （濃度を実測せず） 21dNOEC（設定値に基づく） =1000mg/L</p> <p>①平成2年度環境庁実施試験</p>
魚類急性毒性	<p>生物種： ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法： OECD-TG203 試験方式： 半止水式、24時間毎に換水 純度： 不明（市販の試薬品を使用） 物質濃度： 設定濃度 95、171、309、555、1000mg/L 実測濃度 （濃度を実測せず） 96hLC50（設定値に基づく） >1000mg/L</p> <p>①平成2年度環境庁実施試験</p>

他の毒性 情報	<p>[SIAR (OECD/HPV プログラム) より引用]</p> <p>藻類に対する毒性として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 72hEC50>1000 mg/L <p>ミジンコに対する毒性として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Daphnia magna</i> 24hEiC50>1000 mg/L ・ <i>Daphnia magna</i> 21dNOEC>1000 mg/L <p>魚類に対する毒性として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Oryzias latipes</i> 96hLC50>1000 mg/L ・ <i>Oryzias latipes</i> 48hLC50>1000 mg/L <p>①上記試験結果は、生態影響試験各欄に記載した平成2年度環境庁実施試験結果に基づく。</p>				
生態影響 判定根拠	<p>藻類生長阻害試験において 96hEbC50>1000mg/L (設定値に基づく) であり、ミジンコ急性遊泳阻害試験及びミジンコ繁殖阻害試験において試験上限濃度 (1000mg/L、設定値に基づく) において影響が認められず、魚類急性毒性試験において 96hLC50>1000mg/L (設定値に基づく) であることから、第三種監視化学物質相当でない。</p>				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S52	0/6	—	200~400(μ g/L)
	底質	S52	0/6	—	2(μ g/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	<p>※1 S53 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課) 対水溶解度 1.9kg/L (20℃) (SIDS に基づく)</p>				

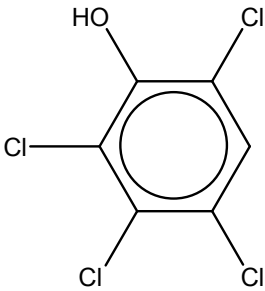
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-790	CAS No.	2581-34-2
判定結果	人健康影響 保留 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：3-メチル-4-ニトロフェノール <div style="text-align: center;">  </div>		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 99.9%. 溶媒 (DMSO-溶解). プレート法. TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. 5000 μg/plate まで実施した用量設定試験の結果を参考に以下の濃度まで実施. (本試験 I, II) -S9mix 群: 2500 μg/plate (1250 μg/plate 以上で菌の生育阻害) +S9mix 群: 2500 μg/plate (1250 μg/plate 以上で菌の生育阻害)		
染色体 異常	陽性 D20 値=0.28mg/mL (+S9mix 群: 構造異常) ±S9mix 群において構造異常の誘発. 純度 99.9%. 溶媒 (DMSO-溶解). CHL/IU. 0.50 mg/mL まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. -S9mix 群: 0.15 mg/mL +S9mix 群: 0.15 mg/mL 24 時間処理群: 0.023 mg/mL 48 時間処理群: 0.023 mg/mL		
簡易生殖	投与方法	強制経口投与 溶媒: 10%アラビアゴム水溶液	
	純度	98.5%	
	用量	3 投与群(30, 100, 300 mg/kg/day)	
	死亡	予備試験(1000: ♂1/5・♀2/5) 本試験(300: ♂1/12)	
	NOEL	反復投与毒性: データが不足しており決定できない 生殖発生毒性: 300 mg/kg/day	
	推定根拠	反復投与毒性: 死亡 一般状態(自発運動低下・腹臥・呼吸緩徐: 300♀) 生殖発生毒性: 全群で特に毒性学的影響は認められていない	
	他の毒性	反復投与毒性: - 生殖発生毒性: -	
回復性	実施せず		

備考	反復投与毒性に関しては、データが不足しているため NOEL は決定できない。
他の毒性	[SIAR より引用] 反復投与 [Subchronic Toxicity of Studies of Sumithion, Sumioxon and p- Nitroresol in Rats and 92 week Feeding Study of Sumithion with Special Reference to Change of Cholinesterase Activity より引用] Wistar ラット (150, 500, 1500 ppm (混餌投与))、6ヶ月間、純度 99.5% [♂ : 9.2, 30.7, 94.7、♀ : 10.1, 32.8, 101.0 mg/kg/day 相当] NOEL : データが不足しており決定できない
備考	Ames 試験、染色体異常試験、簡易生殖試験及び6ヶ月間反復投与毒性試験は OECD/HPV プログラム用のデータとして提出済み。 データが不足しているため NOEL は決定できない。
人健康影響判定根拠	染色体異常試験は陽性であるが、Ames 試験は陰性、6ヶ月間反復投与毒性試験及び簡易生殖毒性試験においてデータが不足しており、NOEL を決定できないことから第二種監視化学物質に該当するかどうか判断できない。(現在情報を収集中)
備考	平成18年12月22日の3省合同審議会では、「Ames 試験は陰性であるが、染色体異常試験は陽性、6ヶ月間反復投与毒性試験においては 30.7mg/kg/day (簡易生殖毒性試験において NOEL100mg/kg/day) であることから第二種監視化学物質相当」という事務局案であったが、現時点での毒性情報だけでは第二種監視化学物質に該当するかどうか判断できないため、追加の毒性情報収集を行い、再度審議することとされた。
藻類生長 阻害	生物種 : <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法 : OECD-TG201 培養方式 : 振とう培養 純度 : >98% 試験濃度 : 設定濃度 0.60、1.0、1.8、3.2、5.8、10、19mg/L 実測濃度 (濃度を実測せず) 0-72hEbC50 (設定値に基づく) = 8.6mg/L 0-72hNOECb (設定値に基づく) = 5.8mg/L ①平成3年度環境庁実施試験
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種 : オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法 : OECD-TG202 試験方式 : 止水式 純度 : >98% 試験濃度 : 設定濃度 3.2、5.6、10、18、32mg/L 実測濃度 (濃度を実測せず) 24hEiC50 (設定値に基づく) = 9.1 mg/L ①平成3年度環境庁実施試験
ミジンコ 繁殖阻害	生物種 : オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法 : OECD-TG202 試験方式 : 半止水式、48時間毎に換水 純度 : >98% 試験濃度 : 設定濃度 1.0、1.8、3.2、5.6、10mg/L 実測濃度 (濃度を実測せず) 21dNOEC (設定値に基づく) = 1.8 mg/L ①平成3年度環境庁実施試験

魚類急性毒性	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 純度：>98% 物質濃度：設定濃度 1.8、3.1、5.6、10、18mg/L 実測濃度 (濃度を実測せず) 96hLC50 (設定値に基づく) =9.8mg/L ①平成3年度環境庁実施試験				
他の毒性情報	[SIAR (OECD/HPV プログラム) より引用] 藻類に対する毒性として ・ <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 72hEbC50=8.6 mg/L (設定値) ・ <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 72hNOECb=5.8 mg/L (設定値) ミジンコに対する毒性として ・ <i>Daphnia magna</i> 24hEiC50=9.1 mg/L (設定値) ・ <i>Daphnia magna</i> 21dNOEC=0.78 mg/L* (設定値) ※登録時の誤りと考えられる。 魚類に対する毒性として ・ <i>Oryzias latipes</i> 96hLC50=9.8 mg/L (設定値) ①上記試験結果は、生態影響試験各欄に記載した平成3年度環境庁実施試験結果に基づく。				
生態影響判定根拠	魚類急性毒性試験において 96hLC50=9.8mg/L (設定値に基づく) であることから、第三種監視化学物質相当。				
環境調査	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
※1	水質	S59	0/21	—	0.06~0.2(μ g/L)
	底質	S59	0/21	—	0.006~0.028(μ g/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	※1 S60 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課) 対水溶解度 13mg/L (25℃) (SIDS に基づく)				

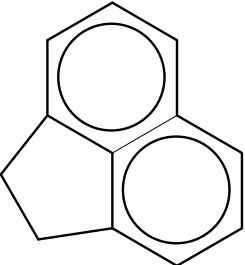
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-969	CAS No.	58-90-2
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：2,3,4,6-テトラクロロフェノール <div style="text-align: center;">  </div>		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響の毒性 情報	<p>[IRIS より引用]</p> <p>反復投与試験 90 日間 ラット強制経口投与、用量：25, 100, 200 mg/kg/day NOAEL：25 mg/kg/day 推定根拠： 絶対重量(肝↑：100 以上♂♀、腎↑：100 以上♀・200 ♂) 相対重量(肝↑：100 以上♂♀、腎↑：100 以上♀・200 ♂) 血液生化学的検査(BUN↑：100 以上♀、TP↑・Alb↑：100 以上♂・200 ♀) 組織学的所見(肝一小葉中心性肝細胞肥大：100 以上♂♀) 他の毒性： 体重↓(200♂) 血液学的検査(PLT↓：200♀) 血液生化学的検査(Alp↑：200♀、GPT↑・A/G↑：200♂、Cl↓：200♂♀)</p> <p>発生毒性試験 ラット 妊娠 6-15 日投与、用量：25, 100, 200 mg/kg/day NOAEL：100 mg/kg/day 推定根拠： 母体の体重増加率↓(200♀)</p> <p>[Bull. Environ. Contam Toxicol., 18:565-571(1977)より引用]</p> <p>Ames 試験 陰性 純度不明 溶媒 DMSO TA98, TA100, TA1535, TA1537 -S9 mix 群：500 μ g/plate +S9 mix 群：500 μ g/plate</p>		

	<p>[Chemosphere, 14 : 1617-1625(1985)より引用] 染色体異常試験 弱い陽性 V79 細胞 (直接法) 純度 溶媒 3 時間処理 1 8 時間回復群 : 0.15mg/mL</p> <p>[Mutation Research 241,175(1990)より引用] 染色体試験 陽性 : CHL/IU 純度不明 溶媒 DMSO - S9 mix 群 : 0.25mg/mL + S9 mix 群 : 0.25mg/mL 24 時間処理群 : 0.09mg/mL 48 時間処理群 : 0.09mg/mL</p> <p>染色体異常試験 陽性 CHO 純度不明 溶媒 DMSO - S9 mix 8 時間処理 + 12 時間回復群 : 0.05mg/plate + S9 mix 2 時間処理 + 18 時間回復群 : 0.2mg/plate</p>
人健康影 響判定根 拠	Ames 試験は陰性であるが、染色体異常試験は陽性、90 日間反復投与毒性試験において NOAEL25mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当。
藻類生長 阻害	生物種 : <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法 : OECD-TG201 培養方式 : 振とう培養 (密閉系) 純度 : 99.9% 試験濃度 : 設定濃度 0.10、0.23、0.46、1.0、2.2、4.6、10mg/L 実測濃度 0.062、0.14、0.28、0.63、1.4、3.3、7.5mg/L (幾何平均値) 助剤 : DMF 100mg/L 0-72hErC50 (実測値に基づく) =2.1mg/L 0-72hNOECr (実測値に基づく) =0.63mg/L
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種 : オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法 : OECD-TG202 試験方式 : 止水式 純度 : 99.9% 試験濃度 : 設定濃度 0.20、0.42、0.89、1.9、4.0mg/L 実測濃度 0.19、0.40、0.85、1.8、3.8mg/L (幾何平均値) 助剤 : DMF 40mg/L 48hEiC50 (設定値に基づく) =1.4 mg/L

ミジンコ 繁殖阻害	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG211 試験方式：半止水式、48 時間毎に換水 純度：99.9% 試験濃度：設定濃度 0.020、0.060、0.18、0.50、1.5mg/L 実測濃度 0.021、0.058、0.17、0.47、1.4mg/L（時間加重平均値） 助剤：DMF 75mg/L 21dNOEC（設定値に基づく）=0.18 mg/L</p>				
魚類急性 毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 純度：99.9% 物質濃度：設定濃度 0.20、0.36、0.63、1.1、2.0mg/L 実測濃度 0.17、0.31、0.56、1.0、2.0mg/L（幾何平均値） 助剤：DMF 20mg/L 96hLC50（実測値に基づく）=0.56mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.31 mg/L 群：異常遊泳（96hr 7/7） 0.56 mg/L 群：異常遊泳（48hr 7/7、72hr 7/7、96hr 6/6）</p>				
生態影響 判定根拠	<p>魚類急性毒性試験において 96hLC50=0.56mg/L（実測値に基づく）であることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S53	0/21	—	0.04~0.3(μ g/L)
		H8	0/33	—	0.25(μ g/L)
	底質	S53	0/21	—	0.003~0.03(μ g/g-dry)
H8		0/33	—	0.009(μ g/g-dry)	
魚類	—	—	—	—	
備考	<p>※1 S54、H9 版「化学物質と環境」（環境省環境保健部環境安全課） 水溶解度：17mg/L</p>				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-645	CAS No.	83-32-9
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当 (平成14年12月27日告示済み) 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：アセナフテン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames【審 議済み】	陰性 純度>99.9%. 溶媒(DMSO—溶解). TA100, TA1535, TA98, TA1537, WP2 uvrA. 5000 μg/mlまで実施した用量設定試験結果を参考に以下の濃度まで実施. (実験Ⅰ) -S9mix群：50 μg/plate (TA1537：最高用量で菌の生育阻害) 200 μg/plate (TA1535,TA98：100 μg/plate以上で菌の生育阻害、 TA100：最高用量で生育阻害) 5000 μg/plate (WP2 uvrA：1250 μg/plate以上で被験物質の析出) +S9mix群：500 μg/plate (TA1537：最高用量で菌の生育阻害) 5000 μg/plate (TA100, TA1535, TA98, WP2 uvrA： 1250 μg/plate以上で被験物質の析出) (実験Ⅱ) -S9mix群：50 μg/plate (TA1537：最高用量で菌の生育阻害) 200 μg/plate (TA1535,TA100：100 μg/plate以上で生育阻害、 TA98：最高用量で菌の生育阻害) 5000 μg/plate (WP2 uvrA：1250 μg/plate以上で被験物質の析出) +S9mix群：500 μg/plate (TA1537：250 μg/plate以上で菌の生育阻害) 5000 μg/plate (TA100, TA1535, TA98, WP2 uvrA： 1250 μg/plate以上で被験物質の析出)		
染色体 異常【審 議済み】	陽性 D20値：0.27mg/ml (+S9mix群：構造異常) +S9mix群で構造異常の誘発 純度>99.9%. 溶媒(0.5%CMCNa水溶液—懸濁). CHL/IU. 1.5mg/ml (10mM) まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施. -S9mix群：1.5mg/ml (細胞毒性のため0.75mg/mlまで観察) +S9mix群：0.40mg/ml (細胞毒性のため0.20mg/mlまで観察) 24時間処理群：1.5mg/ml 48時間処理群：1.5mg/ml		
28日間 反復投与 【審議済】	投与方法	強制経口投与 溶媒：0.5%メチルセルロース水溶液—懸濁	
	純度	99.9%	
	用量	3投与群 (12, 60, 300mg/kg).	

み]	NOEL	12 mg/kg/day
	推定根拠	血液生化学的検査 (PL↑ : 60以上♀・300♂) 組織学的検査 (胃-腺胃のびらん : 60以上♀)
	他の毒性	絶対重量 (肝↑ : 300♀♂) 相対重量 (肝↑ : 300♀♂) 血液生化学的検査 (Cho↑ : 300♀♂、Bil↑ : 300♂) 組織学的所見 (肝-小葉中心性肝細胞肥大 : 300♀♂)
	回復性	問題なし
人健康影響判定根拠	染色体異常試験は細胞毒性の現れる付近の濃度でのみ陽性となっており、それほど強いものではない。反復毒性は内容的にはさほど強いものとは言えないが、推定根拠となった変化について12mg群においても上昇傾向があるため、指定化学物質相当であると判断する。	
藻類生長阻害	生物種 : <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法 : OECD-TG201 培養方式 : 振とう培養 純度 : 99.9% 試験濃度 : 設定濃度 0.23、0.40、0.71、1.3、2.3 [*] mg/L ※分散可能最高濃度 実測濃度 0.044、0.090、0.18、0.33、0.62mg/L (幾何平均値) 助剤 : HCO-40 100mg/L 0-72hErC50 (実測値に基づく) >0.62mg/L 0-72hNOECr (実測値に基づく) =0.18mg/L	
ミジンコ急性遊泳阻害	生物種 : オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法 : OECD-TG202 試験方式 : 止水式 純度 : 99.9% 試験濃度 : 設定濃度 0.20、0.36、0.63、1.1、2.0mg/L 実測濃度 0.17、0.29、0.51、0.85、1.6mg/L (幾何平均値) 助剤 : HCO-40 及び THF (23:2) 100mg/L 48hEiC50 (実測値に基づく) =1.3 mg/L	
ミジンコ繁殖阻害	生物種 : オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法 : OECD-TG211 試験方式 : 半止水式、24 時間毎に換水 純度 : 99.9% 試験濃度 : 設定濃度 0.040、0.095、0.22、0.51、1.2mg/L 実測濃度 0.034、0.084、0.20、0.46、1.1mg/L (時間加重平均値) 助剤 : DMF 及び HCO-60 (23:185) 100mg/L 21dNOEC (実測値に基づく) =0.084 mg/L	
魚類急性毒性	生物種 : ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法 : OECD-TG203 試験方式 : 半止水式、24 時間毎に換水 純度 : 99.9% 物質濃度 : 設定濃度 0.23、0.40、0.71、1.3、2.3 [*] mg/L ※分散可能最高濃度 実測濃度 0.17、0.33、0.60、1.1、2.1mg/L (幾何平均値) 助剤 : HCO-40 100mg/L 96hLC50 (実測値に基づく) >2.1 mg/L また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.60 mg/L 群 : 異常遊泳 (72hr 3/10、96hr 3/10) 1.1 mg/L 群 : 異常遊泳 (24hr 1/10、48hr 5/10、72hr 7/10、96hr 6/10) 遊泳不能 (72hr 3/10、96hr 4/10)	

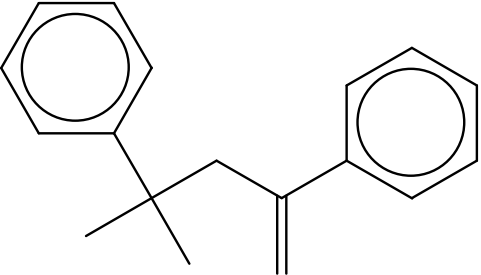
生態影響 判定根拠	ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.084mg/L (実測値に基づく) であることから、第三種監視化学物質相当。				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S58	0/33	—	0.09~0.4(μ g/L)
		S59	3/138	0.05~0.1	0.001~1(μ g/L)
		H11	1/39、1/13	0.012	0.011(μ g/L)
	底質	S58	13/33	0.008~0.13	0.008~0.041(μ g/g-dry)
		S59	58/158	0.00004~0.084	0.00004~0.088(μ g/g-dry)
		H11	35/39、12/13	0.00062~0.24	0.00045(μ g/g-dry)
魚類	S59	15/138	0.001~0.50	0.0001~0.05(μ g/g-wet)	
	H11	11/39、6/13	0.00081~0.0047	0.00077(μ g/g-wet)	
備考	※1 S59、S60、H12 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課) 水溶解度: 0.57mg/L (化審法の既存化学物質安全性点検データ集)、 3.47mg/L (ChemFinder Searching)				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-41	CAS No.	541-73-1
判定結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：m-ジクロロベンゼン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養（密閉系） 純度： 100% 試験濃度： 設定濃度 1.0、3.2、5.6、7.5、10mg/L 実測濃度 0.71、2.2、3.6、5.0、6.3mg/L（幾何平均値） 助剤： HCO-40 及びエタノール（1:3）100mg/L 0-48hErC50（実測値に基づく） >6.3mg/L 0-48hNOECr（実測値に基づく） =2.2mg/L ①密閉系での試験であり、毒性値は0-48時間の増殖阻害より算出した。なお、5.0mg/L以上の暴露濃度では、48時間以上の暴露期間における遅延した強い毒性（枯死）が認められている。		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 半止水式、24時間後に換水 純度： 100% 試験濃度： 設定濃度 0.56、1.0、1.8、3.2、5.6mg/L 実測濃度 0.50、0.90、1.6、2.9、5.3mg/L（幾何平均値） 助剤： HCO-40 及びエタノール（3:2）28mg/L 48hEiC50（設定値に基づく） =2.5 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 Part II（1984年） 試験方式： 半止水式、48時間毎に換水 純度： 100% 試験濃度： 設定濃度 0.10、0.32、0.56、1.0、1.8mg/L 実測濃度 0.080、0.28、0.44、0.80、1.5mg/L（幾何平均値（0h-48h）） 助剤： HCO-40 及びエタノール（3:2）9.0mg/L 21dNOEC（設定値に基づく） <0.10 mg/L ①NOEC 算出できず。公比 1.8 ②本被験物質の21dNOECは、構造が類似したp-ジクロロベンゼン及び1,2,4-トリクロロベンゼンのミジンコ繁殖性への影響から、21dNOEC=0.03mg/L前後と推察される。		

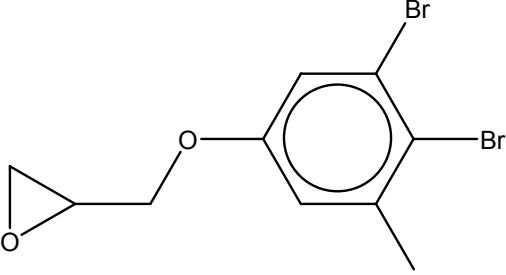
魚類急性 毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：流水式 純度：100% 物質濃度：設定濃度 1.8、3.2、5.6、10、18mg/L 実測濃度 1.8、3.2、5.6、7.1、13mg/L（幾何平均値） 助剤：HCO-40 及びエタノール（3:2）86mg/L 96hLC50（実測値に基づく）=5.7 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 3.2 mg/L 群：異常呼吸（24hr 2/10） 異常遊泳（24hr 2/10、72hr 9/9、96hr 9/9） 水面浮上（48hr 3/10） 5.6 mg/L 群：異常呼吸（24hr 9/10、48hr 10/10、72hr 10/10、96hr 8/8） 異常遊泳（24hr 9/10、48hr 10/10） 水面浮上（48hr 10/10、72hr 10/10、96hr 8/8） 横転（24hr 1/10）</p>				
生態影響 判定根拠	<p>ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC<0.10 mg/L（設定値に基づく）、かつ魚類急性毒性試験において 96hLC50=5.7mg/L（実測値に基づく）であることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S50	0/95	—	0.1~2(μ g/L)
	底質	S50	3/95	0.01~0.05	0.01~0.5(μ g/g-dry)
	魚類	S50	0/75	—	0.02~0.5(μ g/g-w)
	雨水	S50	0/24	—	0.0001~0.002 (μ g/L)
	大気	S58	24/95	0.001~0.0098	0.001 (ppb)
		S11	9/33	23~370	21 (ng/m ³)
備考	<p>※1 S51、S59、H12 版「化学物質と環境」（環境省環境保健部環境安全課） 水溶解度：111mg/L</p>				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-852 4-854	CAS No.	6362-80-7
判定結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名 称： 2, 4-ジフェニル-4-メチルペンテン-1 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG 培養方式：振とう培養（密閉系） 純度：97.4% 試験濃度：設定濃度 0.12 mg/L（試験液調製可能最高濃度における限度試験） 実測濃度 0.059mg/L（時間加重平均値） 助剤：DMF 100 μ L/L 0-72hErC50（実測値に基づく）>0.059mg/L 0-72hNOECr（実測値に基づく）=0.059mg/L （限度試験濃度では影響が認められなかった） ①培地への溶解度：0.12mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、24 時間後に換水 純度：97.4% 試験濃度：設定濃度 0.030、0.042、0.060、0.085、0.12*mg/L ※試験液調製可能最高濃度 実測濃度 0.023、0.031、0.046、0.064、0.096mg/L（時間加重平均値） 助剤：DMF 100 μ L/L 48hEiC50（実測値に基づく）=0.057 mg/L ①試験用水への溶解度：0.12mg/L		

魚類急性 毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 純度：97.4% 物質濃度：設定濃度 0.040、0.055、0.075、0.10、0.14mg/L 実測濃度 0.025、0.037、0.050、0.064、0.092mg/L（時間加重平均値） 助剤：DMF 100 μL/L 96hLC50（実測値に基づく）>0.092 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.092mg/L 群：内出血（48hr 1/10、72hr 1/10、96hr 1/10） 表層遊泳（72hr 2/10、96hr 2/10） ①試験用水への溶解度：0.14mg/L</p>
生態影響 判定根拠	<p>ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=0.057mg/L（実測値に基づく）であることから、第三種監視化学物質相当。</p>
備考	<p>水溶解度：難溶</p>

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-965 3-987	CAS No.	30171-80-3
判定結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	<p>名称：ジブロモクレジルグリシジルエーテル</p> 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害	<p>生物種：<i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG 培養方式：振とう培養 純度：81.24%（不純物 モノ体 6.82%、トリ体 10.34%、その他 1.60%） 試験濃度：設定濃度 0.020、0.063、0.20、0.63、2.0mg/L 実測濃度 0.014、0.046、0.16、0.50、1.6mg/L（時間加重平均値） 助剤：DMF 98 μL/L 0-72hErC50（実測値に基づく）=0.61mg/L 0-72hNOECr（実測値に基づく）=0.046mg/L ①培地への溶解度：28mg/L ②毒性値の純度換算は行っていない。</p>		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：止水式 純度：81.24%（不純物 モノ体 6.82%、トリ体 10.34%、その他 1.60%） 試験濃度：設定濃度 0.40、0.60、0.90、1.3、2.0mg/L 実測濃度 0.36、0.54、0.79、1.2、1.8mg/L（時間加重平均値） 助剤：DMF 98 μL/L 48hEiC50（実測値に基づく）=1.3 mg/L ①試験用水への溶解度：27mg/L ②毒性値の純度換算は行っていない。</p>		

魚類急性 毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 純度：81.24%（不純物 モノ体 6.82%、トリ体 10.34%、その他 1.60%） 物質濃度：設定濃度 0.20、0.40、0.80、1.6、3.2mg/L 実測濃度 0.15、0.31、0.63、1.3、2.6mg/L（時間加重平均値） 助剤：DMF 97 μL/L 96hLC50（実測値に基づく）=1.3 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.63 mg/L 群：異常遊泳（動作の緩慢）（24hr 2/10、48hr 2/10、72hr 2/10、96hr 3/10） 1.3 mg/L 群：異常遊泳（動作の緩慢）（24hr 1/10、48hr 4/10、72hr 2/7、96hr 1/5） 異常遊泳（平衡感覚の消失）（24hr 6/10） 遊泳不能（24hr 3/10、48hr 6/10、72hr 5/7、96hr 4/5） 表層遊泳（24hr 6/10、48hr 4/10、72hr 2/7、96hr 1/5）</p> <p>①試験用水への溶解度：27mg/L ②毒性値の純度換算は行っていない。</p>				
生態影響 判定根拠	<p>藻類生長阻害試験において 0-72hErC50=0.61mg/L、0-72hNOECr=0.046mg/L（実測値に基づく）及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=1.3mg/L（実測値に基づく）であることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S52	0/15	—	0.05~0.25(μg/L)
	底質	S52	0/15	—	0.006~0.02(μg/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	<p>※1 S53 版「化学物質と環境」（環境省環境保健部環境安全課） 水溶解度：記載なし</p>				